

教育家庭新聞

2026年(令和8年)

8月24日

月曜日

第2286号

仲秋・葉月

防災の日(9/1)

宇宙の日(9/12)

十五夜(9/25)

第4月曜日発行

教育マルチメディア

発行所=〒111-0053東京都台東区浅草橋3-1-8
TEL:03(3864)8241代
FAX:03(3864)8245
郵便振替口座 1309-53693

購読申込み ☎03(3864)8241 Eメール kks@kknews.co.jp

ホームページ https://www.kknews.co.jp/

創刊 昭和36年7月 ©教育家庭新聞社 1部 520円

紙面案内

学びの環境・内容をバージョンアップ

社会ニーズに対応した学びの環境や学びの内容そのもののバージョンアップが求められている

■高専・専門高校で学ぶ 2・3面



都立工科高校ドリーム・フェスタより

- 共同調達で校務 DX 4面
- 卒業記念・寄贈品特集 5面
- 学校給食・食育 6面
- 学校図書館・教育旅行 7面
- 教育ニュース 8面

■X(旧Twitter) @kyoikukatei
■紙面問合せ kks@kknews.co.jp
■購読申し込みはこちら→



「教育家庭新聞 教育マルチメディア」購読申し込み書

「教育家庭新聞 教育マルチメディア」は毎月第4週に発行します。メール便でお届けします。電話・FAX、またはHPからお申し込みいただけます。購読者には、新聞紙に加えて、読者専用WebページにアクセスできるIDとパスワードをお届けします。

1. 電話 03-3864-8241 (弊社販売部) 2. FAX 03-3864-8245 (1部 520円)

3. ホームページアドレス https://www.kknews.co.jp/

お申し込み書(年間12回6,240円)	
お名前	
ご職業	
ご住所	〔自宅・通勤先〕(どちらかに○を) (〒 -)
連絡先	電話 () お支払方法 FAX () ご連絡を頂き次第、郵便振替及び銀行振込の用紙をお送りします。どちらかでお支払いください。

「AI時代のリスク判断」を重視 「社会の仕組みを理解」「技術を適切に活用」 情報・技術WG取りまとめ(案)

文部科学省の情報・技術ワーキンググループ(WG)は、次期学習指導要領改訂に向け、情報活用能力の抜本的強化と、情報教育の体系的再構築を柱とする「取りまとめ(案)(会議後修正)」を示した。AI・データ活用が社会基盤となる2040年代を見据え、小・中・高を通じて、情報活用能力の育成を「学習の基盤」として位置付ける。すべての子供たちに一定程度以上の情報活用能力を確実に育成することが目的。教科横断的な学びを支えるため、総則との整合性を図るとともに、情報教育が単発で終わらないように体系化を図っている。



情報技術の「活用」「適切な取扱い」「特性の理解」について小・中・高に位置付け(WG資料より)

■情報活用能力の構成要素を体系化
情報活用能力を、情報技術の「活用」「適切な取扱い」「特性の理解」の3要素で整理。
小・中・高を通じて段階的に育成する資質・能力を体系的・系統的に示した。▼活用II情報を取り集・分析し、課題解決に生かす力 ▼適切な取扱

■「情報の領域」小学校で付加
小学校では、総合的な学習の時間に「情報の領域」を新設。探究のプロセスの中で情報技術を活用する学びを位置付ける。単なる機器操作にとどまらず、情報技術を活用する学びを位置付ける。単なる機器操作にとどまらず、情報技術を活用する学びを位置付ける。

■「情報技術科」中学校で新設
中学校では、現行の技術・家庭科の枠組みを再編。情報技術と生産技術を統合した新教科「情報技術科」を設置する。扱った内容は、情報技術・技術科」を設置する。扱った内容は、情報技術・技術科」を設置する。

■メディアリテラシーを強化
中学校では、現行の技術・家庭科の枠組みを再編。情報技術と生産技術を統合した新教科「情報技術科」を設置する。扱った内容は、情報技術・技術科」を設置する。扱った内容は、情報技術・技術科」を設置する。

■学習指導要領を構造化・デジタル化
文部科学省の総則・評価特別部会では、次期学習指導要領改訂に向け、教育課程の構造化・柔軟化、学習評価の改善を柱とする「取りまとめ(案)(会議後修正)」を示した。王体的・対話的で深い学びの実現、「多様性の包摂」を基盤とし、情報IIではAI・データサイエンス・システム開発・PBLを強化。大学の数理・データサイエンス・AI教育」との接続をより明確化し、高校卒業段階で全員がリテラシーレベルを身につけることとする。

■高等学校では単位制度を柔軟化
高等学校では、必修修を含む科目内容の組み合わせ、1単位17コマへの細分化、学校設定科目の上限拡大、外部試験による履修免除などの導入により、多様な学びに応じた教育課程編成を可能にする。これにより生徒の進路や興味関心に応じた柔軟な科目選択を促し、学びの個性化を進める。

■学習評価を改善
学習評価については「単元目標」「評価規準」「評価課題」「学習過程」%まで調整可能。既存教科Iを活用するよに伝える。AIには汎用AIと教育用AIがある。この区分けは重要だ。汎用AIを使うときは教育の意図が必要である。コンテンツを消費するだけでは学びにはつながらないため。学習を提供する部分に特に力を入れている。知的レベル認識レベルで関与する。AIツールには、取り組むことから広がる。2024年度時点の調査によると、教育現場では、汎用AIを用いてエッセイを書いた学生に、何に書いたのかを聞いて、約8割が記憶している。一方、模範解答のためにAIが、教員の生産性向上に

教育×生成AIシンポジウム

7月30日、「教育×生成AIシンポジウム」生成AI時代「学びはどのように変わるのか」が東京大学およびオンラインで開催され、会場に1,000人、オンラインで3,000人以上が参加した。主催は生成AIの活用を通じた教育課題の解決に向けた教育DXの加速事業「コンソーシアム事務局」。元日本テレコム・ネットワークソリューションズ株式会社の加藤聡氏と、哲学者で探究学習教材を開発している株バトンの田村正資氏がモデレータを務めた。

矢野和彦・文部科学省 活用能力の抜本的向上を議論は「参加者数の多さ」に生成AIに対する関心の高さを感じる。現在、変革をもたらさず。大学などの人材育成システムに活用することが重要であり、生成AIの活用が重要である。生成AIは、各教科を駆動させる基盤である。生成AIは、各教科を駆動させる基盤である。生成AIは、各教科を駆動させる基盤である。

教育特化型生成AIで教員の生産性向上に寄与
ふくにより抜本的向上を図ることが検討されている。情報活用能力は、各教科を駆動させる基盤である。生成AIは、各教科を駆動させる基盤である。生成AIは、各教科を駆動させる基盤である。

教育特化型生成AIで教員の生産性向上に寄与
ふくにより抜本的向上を図ることが検討されている。情報活用能力は、各教科を駆動させる基盤である。生成AIは、各教科を駆動させる基盤である。生成AIは、各教科を駆動させる基盤である。

教育特化型生成AIで教員の生産性向上に寄与
ふくにより抜本的向上を図ることが検討されている。情報活用能力は、各教科を駆動させる基盤である。生成AIは、各教科を駆動させる基盤である。生成AIは、各教科を駆動させる基盤である。

教育特化型生成AIで教員の生産性向上に寄与
ふくにより抜本的向上を図ることが検討されている。情報活用能力は、各教科を駆動させる基盤である。生成AIは、各教科を駆動させる基盤である。生成AIは、各教科を駆動させる基盤である。

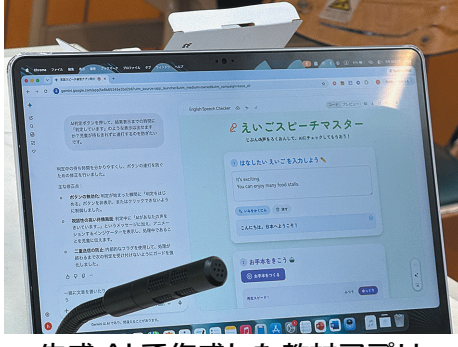
教育特化型生成AIで教員の生産性向上に寄与
ふくにより抜本的向上を図ることが検討されている。情報活用能力は、各教科を駆動させる基盤である。生成AIは、各教科を駆動させる基盤である。生成AIは、各教科を駆動させる基盤である。

AI時代の主体的な学びへの転換

第5回 学びの伴走者！生成AIからのフィードバック 福岡県筑前町の取組から



友達とのスピーチ練習の様子



生成AIで作成した教材アプリ

福岡県筑前町(宮崎敏宏教育長)は、町内全体での教育DXの推進を目的として、毎年6月に「GIGAスクール甲子園08」を開催している。今年度は6月18日に町内の小・中各校代表7学級による公開授業を実施。自己調整の質を高める「自分で選んで自分で決める」授業づくりを共有して、生成AIの活用を積極的推進している。小学校6年外国語授業では、自分のスピーチを元に生成AIの活用を積極的に推進している。小学校6年外国語授業では、自分のスピーチを元に生成AIの活用を積極的に推進している。小学校6年外国語授業では、自分のスピーチを元に生成AIの活用を積極的に推進している。

国立高専のスタートアップを支援 高専機構×日本公庫が伴走

国立高等専門学校機構(高専機構)と日本政策金融公庫(日本公庫)は、8月5日、全国の国立高等専門学校(高専)に在籍する学生や教員によるスタートアップ創出を支援するため、体系的かつ継続的な連携を開始すると発表し、ビジネスプランの検討段階から起業に至るまで、両機関が伴走型で一貫してサポートする体制を整える。高専スタートアップの創出を加速させる考えだ。

府県は研修と情報提供。各学校は教育課程公表・学校運営協議会承認し、市町村は教育課程編成を承認することで透明性と改善サイクルを確保する。

国立高等専門学校機構(高専機構)と日本政策金融公庫(日本公庫)は、8月5日、全国の国立高等専門学校(高専)に在籍する学生や教員によるスタートアップ創出を支援するため、体系的かつ継続的な連携を開始すると発表し、ビジネスプランの検討段階から起業に至るまで、両機関が伴走型で一貫してサポートする体制を整える。高専スタートアップの創出を加速させる考えだ。

SDGs実践プログラム、STEAM・PBLプログラム実施中



私たちは、衛生管理の徹底を心がけています！

かけがえのない家族として、お互いの命を守る為には、考えられる限りの「事前準備」が必要です。私たちは万全の態勢で、皆さんを心よりお待ちしております。

四国、徳島県西部に阿波「その郷」では、ローカルSDGsの実践現場として、地域ESD活動推進拠点に登録されています。民泊での家業をベースに、世界農業遺産の「急傾斜地農耕システム」や、「エシカル農業」を体験し、集落コミュニティのサステナビリティについてインタラクティブに学びます。また、HACCPの考え方を取り入れた「衛生管理」にも取り組んでいます。その郷の家族となり、自然豊かな「世界農業遺産」の家業体験の中で、「生きる知恵」と相手を思いやり「命を守る行動」を習得し、不確かな未来に対し、自発的に立ち向かう若者を育成します。

修学旅行/校外学習/キャリア教育

SDGs実践 アクティブラーニング

四国・徳島

～持続可能な開発のための教育現場～

Education for Sustainable Development

ESD体験型教育旅行

その郷

Sora no sato

山里物語

Yamazato story

世界農業遺産の暮らし継承

ESD体験型教育旅行

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

お問い合わせ：一般社団法人その郷 教育旅行 ☎0883-76-0713

にし阿波～剣山・吉野川観光園 『徳島県・美馬市・三好市・つるぎ町・東みよし町』

全国教育民泊協会/全国ほんの体験ネットワーク